

平成 30 年 11 月 8 日
愛 媛 大 学

民具を通した生活文化継承プロジェクト － 愛媛大学学生が地域と協働で小学生の郷土学習を実践 －

愛媛大学社会共創学部井口梓研究室では、内子町小田地区に受け継がれる「民具」の継承と活用に取り組むために、小田自治センター、内子町立小田小学校、内子町教育委員会、と連携し「ふるさとの民具活用プロジェクト」に取り組みます。

小田地区に位置する旧小田町郷土資料館は、2004 年以降閉館しており、小田の歴史と暮らしを伝える収蔵民具の継承と活用が課題となっていました。井口研究室では、小田地区の住民の方々と協働で、民具に関する聞き書き記録の作成に取り組んできました。

このたび、その調査成果をもとに、小田小学校 3 年生の社会科教育と連動して旧郷土資料館の民俗史料を活かし、地元高齢者と大学生が語り部・ガイドとなった郷土学習を実施します。多くの地域が抱える寄贈民具の課題に対し、新しい挑戦を通して、小学生・大学生・地元高齢者がともに活用の可能性について探ります。

下記の日程で開催いたします。つきましては、広く周知いただきますとともに、是非取材くださいますようお願いいたします。

記

■日時 11月14日（水）10:00～11:40 「ふるさとの郷土資料館で学ぶ民具」

■場所 旧小田町郷土資料館（所在地：喜多郡内子町中田渡 52-1 別紙参照）
問い合わせ：0892-52-3117（小田自治センター：上山淳一）

■実施者

愛媛大学社会共創学部文化資源マネジメントコース井口 梓・2 回生 4 名、3 回生 4 名
内子町立小田小学校 3 年生児童

※送付資料 2 枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学社会共創学部 准教授
井口 梓（いぐち あずさ）
TEL (FAX) : 089-927-9290
Mail : iguchi@ehime-u.ac.jp

旧小田町郷土資料館の民具を通した生活文化継承プロジェクト

現在、全国の多くの郷土資料館等では、関連予算の減額、人手不足により、収蔵庫の確保、収蔵品の管理・活用が十分に行うことができない実態が指摘されています。近年では、地元住民から持ち込まれる民俗史料が増加傾向にあり、これら寄贈された貴重な史料をどう継承し活用するか、同様の問題を各自治体が抱えています。これら課題に対して、文化財行政のみならず、地元住民や学校教育機関、NPOなど多様なステークホルダーが協働・連携し、生活の中で継承・活用する新しい試みが必要とされています。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトでは、2017年から内子町小田自治センター、内子町教育委員会、地元住民と連携し、閉館した旧小田町郷土資料館に収蔵される民俗史料の継承と活用の可能性を検討することに取り組んでいます。これら民俗史料のうち、小田の地域性を継承する「生活」や「産業」にまつわる民具について、地元住民の聞き書き記録を実施してきました。今回は、これら調査成果を踏まえ、旧郷土資料館の民具を活かした郷土学習を実践します。当日のプログラムでは、内子町立小田小学校3年生を「特別学芸員」に任命し、高齢者の聞き取り調査など、学芸員として調査研究と民俗史料の情報発信（発表）に取り組む予定です。本プロジェクトでは、生活にまつわる地域文化継承の重要性を子供たちの活動を通して発信します。

※本活動は、2017年からプロジェクト基礎演習・実践演習・応用演習を通した授業の一環として聞き書き記録調査を実施し、旧小田町郷土資料館での文化資源マネジメント活動にあたってCOC事業を使用しています。

□当日プログラムの流れ

11月14日（水）予定

10時頃～本日の活動の説明

10時15分頃～児童×大学生×地元住民による活動

11時05分頃～児童による成果発表

11時25分頃～まとめ

11時40分頃 終了

□場所

旧小田町郷土資料館

所在地：喜多郡内子町中田渡52-1

